

# 長野市公文書館便り

●発行日：平成29年(2017)1月10日 ●発行：長野市公文書館



**【公開資料】**

- ・「西村敬文書」(古文書1点)
- ・「馬場家文書」(古文書497点)
- ・図書目録を更新しました

**【見学】**

- ・11月15日朝陽公民館から45人の方が「公文書館見学ツアー」にみえました。

**【研修】**

- ・11月10、11日三重県津市で行われた「第42回全国歴史資料保存利用機関連絡協議大会全国大会」に専門主事が出席しました。
- ・11月11日県立歴史館で行われた「長野県史料保存活用連絡協議会」に専門主事が出席しました。

“ふるさと長野～カイクんの歴史探訪～”好評配信中！

6月から当館も制作に協力している、「愛TV ながの」でスタートした『ふるさと長野～カイクんの歴史探訪～』は、現在6回目まで配信されています。

- ① 豊かな水と緑 わたしたちの長野市
- ② 善光寺平のあけぼの クニのおこりと開けゆく北信濃
- ③ 戦国の世と川中島の戦い 生きのびた北信濃の武士
- ④ 全国に広がる善光寺信仰 一生に一度は善光寺参り
- ⑤ 松代藩と真田氏 十万石の城下町と北国街道
- ⑥ 広がる文化と変わりゆく世の中

～佐久間象山の活躍と藩校・寺子屋～

信都・長野市が、どのように生まれ発展してきたのか親子で楽しく学べる内容です。パソコンや携帯から「愛TV ながの」で検索してみてください。(月1回/全10回)

「公文書館資料で振り返る市町村の歩みと暮らし」  
-長野市民新聞で第2.4土曜日大人気掲載中！-

**パネル展のおしらせ**

東町の門前商家ちよっ蔵おいらい館で「松井須磨子とその時代-明治末から大正時代の長野」を開催します。お越しください。

○会場：門前商家ちよっ蔵おいらい館内「市民ギャラリー」

○日時：平成29年1月31日(火)～2月12日(日)  
午前9:00～午後5:00 (月曜休館)

**長野市公文書館**

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)

電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051

H P <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>

又は **長野市公文書館** で検索

E-mail [shomu-9@city.nagano.lg.jp](mailto:shomu-9@city.nagano.lg.jp)

開館時間 午前9時～午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)

休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日  
年末年始(12月29日～1月3日)

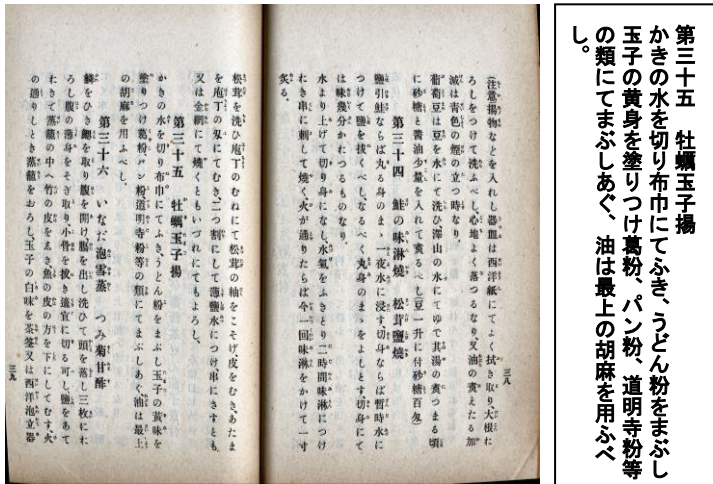


## 古文書紹介

平成25年度南部図書館から移管された「和洋料理書 全」(戸川安宅/著)(明治36年発行)(古116-2-752)を紹介いたします。和食、洋食、デザートの基本から応用まで全部で200品以上のメニューの作り方、他に献立やマナー、調理器具等が載っており、当時の華やかな生活が伺えます。料理はどれも今より手が込んでいておいしそうです。



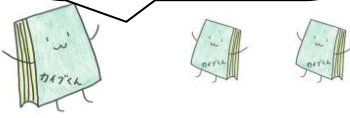
口絵「華族会館西洋料理室」 口絵「西洋料理配膳の図」



第三十五 杜鰍玉子揚  
かきの水を切り布巾にてふき、うどん粉をまぶし玉子の黄身を塗りつけ葛粉、パン粉、道明寺粉等の類にてまぶしあげ、油は最上の胡麻を用ふべし。



♪作ってみました♪  
カキフライの出来上がり！  
胡麻油で揚げたので、とても風味がよくソースが必要なくておいしかったです(〜)V



## 平成28年度 長野市公文書館講演会 女優 松井須磨子とその時代 松井須磨子研究家 宮坂勝彦氏

### 今も個性を主張し続けている須磨子 豊富な資料 歌人柊花の手紙をもとに

10月21日、「平成28年度長野市公文書館講演会」を開催しました。今年度は、「女優 松井須磨子とその時代」と題して、『信州人物風土記・近代を拓く』(全23巻)の編集・執筆などに携わってきた「須磨子芸術倶楽部」事務局長の宮坂勝彦氏に講演をお願いしました。

松井須磨子については、現在も多くの出版物や放送番組が作られています。平成26・27年は、女優誕生100年ということで、須磨子関連の催しや番組がありました。かくも激しく個性を主張し続けている須磨子。そんな須磨子について、宮坂氏のこれまでの仕事と研究の中で、新たに入手できた写真やレコードなど豊富な資料を提示され、それを元にしたお話を聞くことができました。

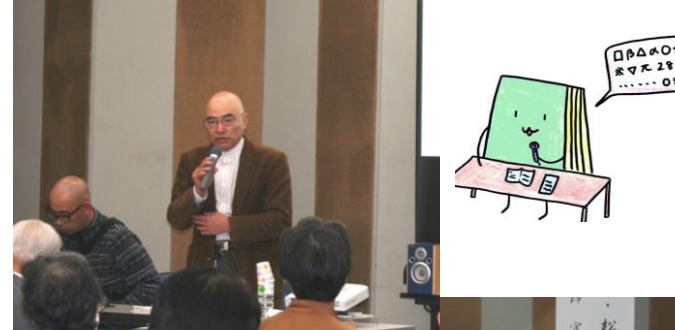
前半では、須磨子と同じ長野市松代町出身の歌人、中村柊花(しゅうか; 明治21年9月7日生、若山牧水に師事。「土の歌人」と言われる)の目を通した女優松井須磨子の姿や個性の主張について話されました。柊花は大正3年3月28日、帝国劇場で行われた芸術座「復活」の須磨子の舞台を観ています。そして、その肉声を聴き、演技を観て感じた劇評を、地方史家大平喜真多(きた)に送っています。その手紙をもとに、豊富な舞台写真を写しながら、芸術座の軌跡も話していただきました。

後半では、須磨子の生い立ちを中心に、文芸協会時代、芸術座時代、島村抱月の死と須磨子の終焉についてお話しいただきました。生い立ちでは、長野市松代町・上田市・千曲市などを踏査し、新たに入手できた資料からいくつかの発見をされ、小林正子時代(女優の道に入る前)の経歴の訂正もありました。

新しい演劇運動を展開した文芸協会時代には、演劇研究所研究生募集に応募し、「ハムレット」や「人形の家」で脚光を浴びました。しかし、島村抱月との恋愛関係が表面化し、退会。文芸協会も解散してしまいます。

大正2年7月、新たに芸術座を結成し、同3年3月、第3回公演トルストイの「復活」で大成功を収め、近代演劇の初めての女優としての地位を確立していきます。その成功には、中山晋平作曲による劇中歌が大きな役割を果たしています。「カチューシャの唄」「ゴンドラの歌」、「さすらいの歌」など、舞台写真を見ながら当時のレコードの録音を聴かせていただくこともできました。

会場いっぱい設置された椅子もほぼ埋まり、どなたも熱心に聞いていました。県外からの聴講者もあり、女性やご夫婦での参加者が多かったのも今回の講演会の大きな特徴でした。



熱心に語る宮坂氏



80人近くの方が受講されました

**『市誌研究ながの』23号 好評発売中！！**

「真田昌幸・信幸・信繁」についての講演会の収録や、「曹洞宗長野尼僧学林」、「戸隠神社宝光社の建築彫刻」「浅川と用水の歴史」などの論文・研究レポートを掲載しています。ご希望の方は当館までお問合わせください。◇判型A4版 139頁 定価：1,500円(税込)

松井須磨子  
とその時代

# 明治末から大正時代の長野

■会期：平成 28 年 10 月 16 日(日)～30 日(日) ■会場：長野市城山分室共用会議室 1

近代演劇のさきがけとして一世を風靡した松代町出身の女優・松井須磨子が駆け抜けた明治末から大正時代とはどのような時代だったのでしょうか。そして、その頃の長野の様子はどうだったのでしょうか？

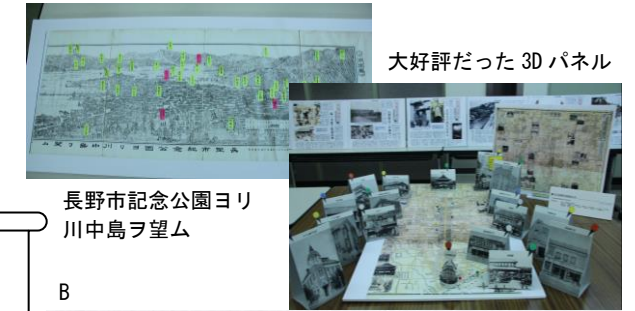
明治維新後の日本は「脱亜入欧」をスローガンに近代化の道を歩みます。憲法制定、議会政治の確立、そして日清、日露の 2 つの大きな戦争も経験しました。明治時代の終わりは、その無理な戦争を続けたために大変な財政危機に陥りますが、大正 3 年(1914)に第一次世界大戦が勃発すると海運業を中心に好況を呈します。しかし戦争特需はすぐに終わり、昭和初期に世界恐慌が起こると社会は大きく揺れ動き、やがて日本は 15 年戦争へと突き進んでいくのです。

その一方で「大正デモクラシー」「大正ロマンティシズム」といわれるように多方面にわたって民主化や大衆化が進み、新しい文化が開花したのもこの時代

でした。平塚らいてうや与謝野晶子、今展の主人公である松井須磨子に代表されるように女性が社会に進出していった時代でもありました。大正時代は、15 年という短い期間でしたが、日本のみならず二十世紀に入った世界が大きく変容した時代だったのです。

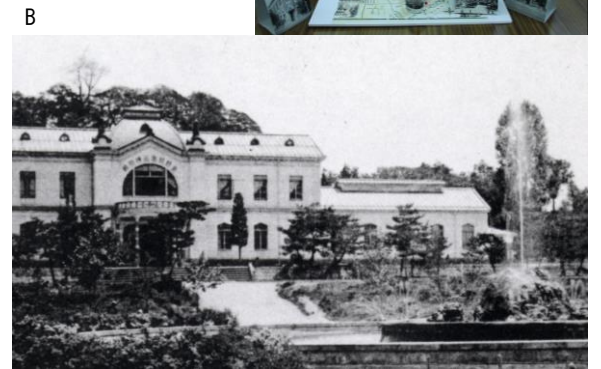
長野もまた、そうした時代の中で大きく姿を変えていきました。市内には電灯がともり、上水道が整備されました。善光寺門前の中央通りは幅員を広げ、洋風建築が建ち並び、乗合バスが行き来します。都市の近代化が急速に進み、人々の暮らしも豊かで便利なものになっていきました。

## 近代化が進んだ 大正時代の長野



大好評だった 3D パネル

長野市記念公園ヨリ  
川中島ヲ望ム

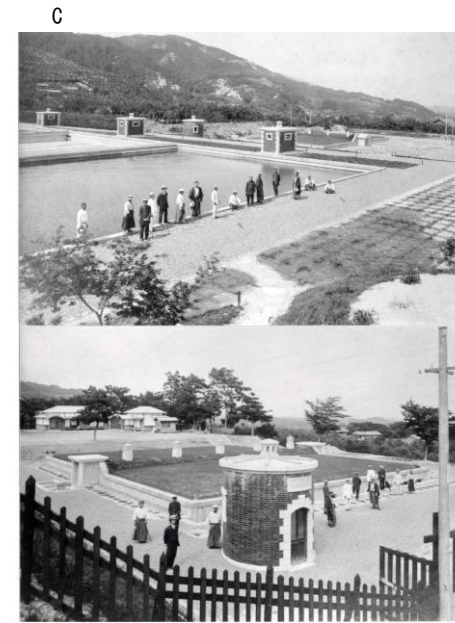


B 長野県商品陳列館 大正 3 年(1914)7 月 明治 41 年開催の一府十県共進会で建設された建物が県内外の商品を展示・販売する会場としてリニューアルオープン。

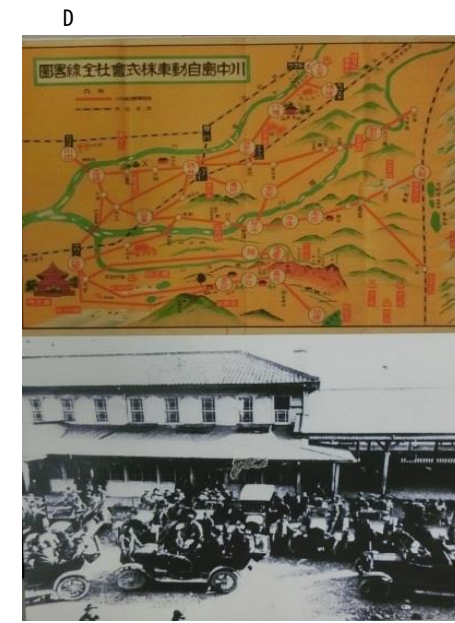


A 長野電燈(株)が開業 明治 30 年(1887)5 月 茂菅に発電所が建設され会社設立から 1 年後の明治 31 年 5 月、長野に初めて電灯がともった。

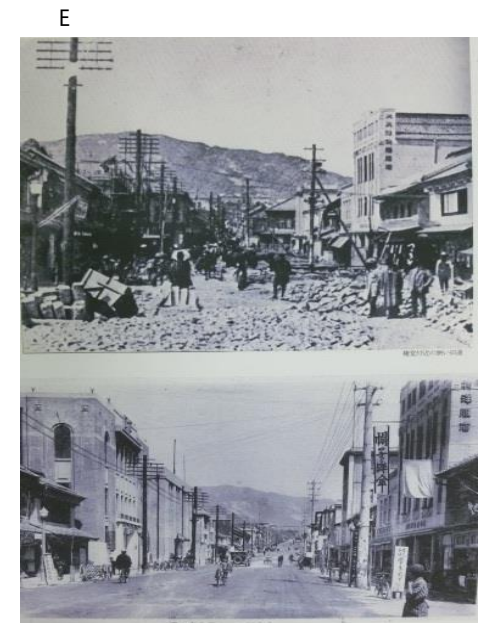
電灯がともり、  
噴水ができた！



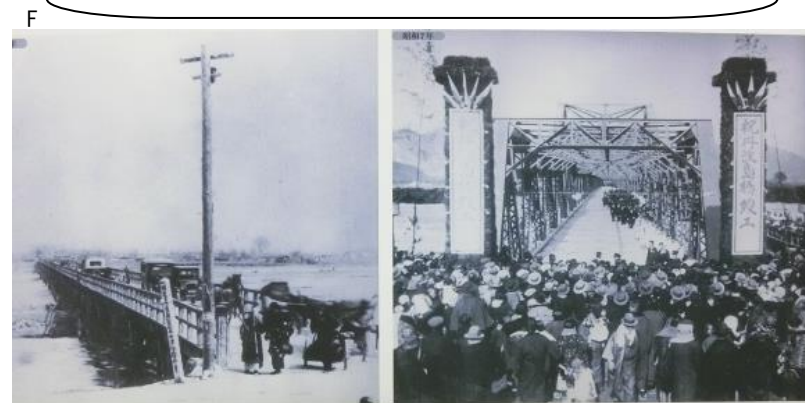
C 上水道の開設 大正 4 年 11 月 戸隠を水源とする上水道の設置工事が始められ、長野市往生寺に浄水場が完成した。



D 乗合自動車(バス)の運行 大正 5 年 5 月 長野-高府(小川村)間で初めて乗合バスの運行が開始され、その後各地にバス路線が登場。



E 中央通りの改修 大正 13 年 12 月 当時の中央通りは道幅が狭く通行に支障を来たしていたが、この改修工事で車道と歩道を分離した 10 間幅(18 メートル)の道路に生まれ変わった。



F 丹波島橋-木橋から鉄橋へ 昭和 7 年(1932)12 月 舟橋から木橋を経て昭和 7 年、トラス式の大鉄橋に架け替えられた。両側に歩道を据え付けた鉄橋は当時珍しいものだった。

G 仏閣型長野駅が完成 昭和 11 年 3 月 大正から昭和初期にかけて各地で郷土色豊かな駅舎が建設されたが、仏都を象徴する駅舎として今も懐かしい仏閣型の駅舎はこの時つくられた。

『ハムレット』でオフェリアを演じる須磨子。この役が女優としての第一歩だった。



『復活』の舞台写真。この舞台で須磨子は「カチューシャの唄」を歌い、一世を風靡した。



オフェリアを初めて演じた 26 歳頃の須磨子(左)。人気絶頂を迎えた 30 歳代の須磨子(右)。

イブセン作『人形の家』でノラを演じる須磨子(中央)。

